

I. 事業の基礎情報

事業名		学び合い・高め合い事業		担当部・グループ名		こども未来部 文化スポーツグループ					
総合計画 (基本計画) 体系	個別目標	(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちの子カラを育みます									
	こんなことに取り組みます	市民(特に子ども・若者)の「知りたい」「やってみたい」「役立ちたい」を応援し、市民同士が学び合い、高め合う場づくりを進めます。									
	みんなで目指すまちづくり 指標名	ア. 将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合 イ. 持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合									
		策定時の値	7.76	実績値	-	実績値	-	実績値	-	目標値	7.81
	2017	1.29	2018	-	2019	-	2020	-	2021	1.35	%
総合戦略		<input checked="" type="checkbox"/> 該当する <input type="checkbox"/> 該当しない			予算事業名		たかはま夢・未来塾事業、生涯教育活動推進事業				

II. 目指す姿

このアクションプランによって実現したい 目指すべき市の姿	<p>☆個人が培ってきた知恵・特技・体験などが、人づくりやまちづくりに活かされ、子ども・若者や大人がともに成長している。</p> <p>☆学び・文化等の活動を通して市民同士の交流が深まり、「高浜市が好き」「市民や地域のために何かやってみたい」という市民が増えている。</p>
---------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

III. 課題

目指す姿実現に向けた課題	<p>①子どもの「知りたい」「やってみたい」という好奇心や意欲を高める機会を豊かにしていく必要がある。</p> <p>②未来塾について、卒塾生(高校生・大学生・社会人)や保護者世代のサポーター参加を促していくとともに、企業等の理解・関心を高め、講師やサポーターなどの事業協力を得られるように働きかけていく必要がある。</p> <p>③学び・文化活動の担い手や教え手の掘り起こしを行うとともに、市民(特に子ども・若者)の好奇心や意欲の高まりにつながる講座・体験・事業など、市民が持っている知恵・技能・体験等を能動的に活かせる機会を創出する必要がある。</p> <p>④学びに関わる各主体が、各種事業や活動を通して繋がりを深め、個々の力を高め合いながら、人づくりやまちづくりの土台となる力を育てていく必要がある。</p>
--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【PLAN】

IV. 目指す姿の実現に向けた4年間の工程表・事業概要

事業年度	2018(平成30年度)	2019(平成31年度)	2020(平成32年度)	2021(平成33年度)	
事業計画	講座の企画・開催	講座の企画・開催	講座の企画・開催	講座の企画・開催	
	大会・発表会等への参加	大会・発表会等への参加	大会・発表会等への参加	大会・発表会等への参加	
	美術館との連携(未来塾展など)	美術館との連携(未来塾展など)	美術館との連携(未来塾展など)	美術館との連携(未来塾展など)	
	講座の見直し	講座の見直し	講座の見直し	講座の見直し	
	卒塾生追跡調査	卒塾生追跡調査	卒塾生追跡調査	卒塾生追跡調査	
	サポーター・協力企業募集	サポーター・協力企業募集	サポーター・協力企業募集	サポーター・協力企業募集	
	他団体事業との連携	他団体事業との連携	他団体事業との連携	他団体事業との連携	
	高浜版プログラミング教育への協力(研修・企画)	高浜版プログラミング教育への協力(トライアル)	高浜版プログラミング教育への協力(本格実施)	高浜版プログラミング教育への協力(実施)	
	活動情報の収集・発信	活動情報の収集・発信	活動情報の収集・発信	活動情報の収集・発信	
	各種活動者の掘り起こし 活躍機会の創出	各種活動者の掘り起こし 活躍機会の創出	各種活動者の掘り起こし 活躍機会の創出	各種活動者の掘り起こし 活躍機会の創出	
生涯学習基本計画 [後期]の推進	生涯学習基本計画 [後期]の推進	生涯学習基本計画 [後期]の推進	生涯学習基本構想・基本 計画の見直し		
事業費総額(千円)	(当初) 5,838	(見込) 5,838	(見込) 5,838	(見込) 5,838	
財源内訳	一般財源	5,337	5,337	5,337	5,337
	特定財源	501	501	501	501
特記事項					

【DO】

Ⅲと対応する課題		V. 上半期の進捗状況 目標達成のために掲げた「課題解決に向けた取り組み」とその進捗状況
①	◆【未来塾】子どもの学ぶ意欲・挑戦力等を伸ばす講座を企画・実施するとともに、教育委員会と連携し、高浜版プログラミング教育への協力を行う。	状況 たかはま夢・未来塾の今年度事業がスタートして、子ども達が各講座に参加している。8月2日に教員を対象としたプログラミング講座を開催する準備や打合せを行った。
②	◆【未来塾】他団体との連携事業を実施する。未来塾事業に対する理解・関心を高め、サポーター・協賛者の掘り起こしや事業協力等につながる。	状況 たかはま夢・未来塾の外部講師として、㈱豊田自動織機のボランティアを募り、応募者と打合せを行った。
③	◆【生涯教育】活動の担い手・教え手の掘り起こしを行い、活動機会を創出する。	状況 かわら美術館のアートサポートメンバー、タカハマ！まるごと宝箱市民発表者等の様々な場で市民が活動している。
④	◆【生涯教育】「第2次生涯学習基本構想」の基本計画〔後期〕に基づき、市民・地域・事業者・関係機関と連携しながら、個々の力を高め合うとともに、まちづくりの原動力を育む取組みを進める。	状況 学びを通じた市民同士のつながりを醸成していく仕組みについて内部検討を行った。

【CHECK】



Ⅲと対応する課題		VI. 上半期の取り組みから見えてきた課題 目指す姿実現に向け、これまでの取り組みから見えてきた課題
①	【未来塾】発明クラブは塾生数が増えた(15→30名)ことにより、サポートする大人が手薄な状況にある。教員向けのプログラミング講座は無事に終了したが、今後の展開について引き続き市教委と協議していく必要がある。	
②	未来塾について、卒塾生や保護者世代のサポーターを促していくとともに、企業等の理解・関心を高め、講師やサポーターなどの事業協力を得られるように働きかけていく必要がある。	
③	学び・文化活動の担い手や教え手の活動を、「こんなことをやります」という告知だけではなく「こんなことをやりました」という実際の活動の様子を、広報等で積極的にPRすることによって、より市民に認知してもらい、想いを共有する必要がある。	
④	学び・文化活動の担い手や教え手の掘り起こしを行うとともに、市民の好奇心や意欲の高まりにつながる講座・体験・事業など、市民が持っている知恵・技能・体験等を能動的に活かせる仕組みづくりを構築する必要がある。	

【ACTION】



Ⅲと対応する課題		VII. 課題解決を踏まえた今後の具体的なアクション(案) いつ・何を・どのように・どうする
①	平成30年度下半期	【未来塾】次年度に向けて、塾の各講座内容について精査していく。
	平成31年度	【未来塾】未来塾以外での講座(工場見学、大会参加)といった外部からの刺激を受けるカリキュラムを設けて、子ども達の体験の幅を広げる。
②	平成30年度下半期	【未来塾】・卒塾生向けのアンケートを実施したり講師やサポーター依頼等のアプローチをして、未来塾との関係性を継続させるように努める。 ・活動内容や実績について外部にPRする機会を設ける。
	平成31年度	【未来塾】・卒塾生向けのアンケートを実施したり講師やサポーター依頼等のアプローチをして、未来塾との関係性を継続させるように努める。 ・活動内容や実績について外部にPRする機会を設ける。
③	平成30年度下半期	【生涯教育】アートサポートメンバー等の学びに関わる各主体の活動を、定期的に紹介するといった担い手のPRを積極的に行い、活動者以外の応援者や理解者、協力者に繋げる。
	平成31年度	【生涯教育】活動内容について市広報への掲載等を通じて、学びに関わる市民の顔が見える環境をつくる。
④	平成30年度下半期	【生涯教育】・学びに関わる各主体の掘り起こしや情報共有について、ICTが活用できないかを市民と話し合う場(「ざっくばらんなカフェ」等)を設ける。 ・既存のツールの活用やハッカソンといったイベントを実施して、実際に試してみる機会を設ける。
	平成31年度	【生涯教育】・学びに関わる市民同士が緩くつながることができる場(まるごと宝箱等)を実施する。 ・学びに関わる各主体が繋がるツールの試行を行う。
平成31年度 事業費予算	5,838千円	